

第2回 関町病院リハビリ科主催講習会

主催：関町病院

開催日時 平成18年12月17日（日） 14：00～19：30

開催場所 文京学院大学 ふじみ野キャンパス

講師 柿崎 藤泰先生（文京学院大学 理学療法学科 助教授）

参加者 当院理学療法士8名＋他院理学療法士21名 合計29名

姿勢・動作分析と理学療法

ヒトの運動機能というキーワードに沿って患者様の病態を理学療法士という立場からどう捉えていくかを考える。理学療法士の専門性を出していく為には上記のキーワードについて追究する事は重要になり、その一つ的手段として姿勢・動作分析は多くの情報を得る事のできる評価項目である。これらの評価を実際の被検者の評価・治療の様子を画像を通して提案された。

□姿勢観察

まずは姿勢を観察・分析する事が大切。左右差や見た目でも分析する。視診だけでなく問診も大切。（どのような生活習慣だったか、既往歴etc）

□評価ポイント

- ・姿勢・形態の観察
- ・座圧中心の移動と体幹の運動連鎖
- ・身体重心観察点

□動作分析

評価ポイント

- ・前後屈
- ・側屈
- ・回旋
- ・片脚立位
- ・股関節伸展

□姿勢制御戦略（ストラテジー）

評価ポイント

- ・立位（ankle strategy/hip strategy）
- ・座位（胸椎制御/腰椎制御）

□足底挿板

歩行を観察し、インソール・テーピングを利用して歩容の改善を図る。

評価ポイント

- ・距腿関節の誘導
- ・距骨下関節/横足根関節の誘導
- ・前足部（第1、5、2～4列）の誘導